

ざしきわらし

〒028-6193

岩手県二戸市堀野字大川原毛 38 番地 2

TEL 0195 (23) 2191

FAX 0195 (23) 2834

URL <http://www.ninohe-hp.net/>

編集発行 岩手県立二戸病院 図書広報委員会

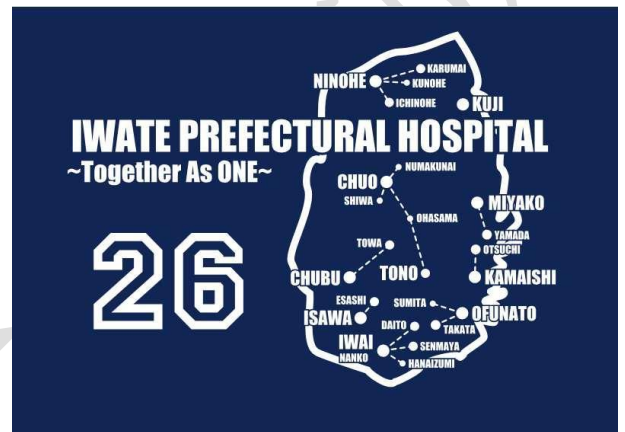


「わかくさりぼん」に思いを寄せて  
Together As ONE ~心ひとつに 岩手県立病院~

事務局長 千葉 直樹

当院では夏季になるとこんなバックプリントのポロシャツを着用し業務にあたる職員が大勢おりますが、その左袖には、昔は大きく、最近控えめに「リボン」がプリントされていること、お気づきですか？

最近ではその由来を知らない若い職員も増えてきていますし、せっかくの機会ですのでみなさまにも知っていただきたく、今回は岩手県立病院の復興のシンボル「わかくさりぼん」のお話をさせていただきたいと思います。



【岩手県立病院の復興へのシンボル  
「わかくさりぼん」



岩手県は広大な県土に 26 の県立病院・診療所が設置（全国最多です）されています（だから「26」なんですね）が、2011.3.11 岩手県を襲った東日本大震災津波は、私たち県立病院にも大きな爪痕を残しました。高田・大槌・山田の各病院は津波による浸水でほぼ壊滅。診療機能を失い、大船渡・釜石・宮古・久慈の各病院も建物の壊滅は逃れたものの、電気も水も食料もない中、また、自らの家族の安否さえ確認できない方もいた中で、ほとんどの職員は昼夜をいとわず献身的に診療を続けました。それは「医療人」としての使命感、ひとりひとりが地域の医療を守る「最後の砦」であるとの信念がそうさせたんだと感じます。

被災地でがんばり続けてきた職員に肉体的にも精神的にもピークが訪れてきた頃、だれからともなく、そして多くの声があがりました。「私の初任地である宮古病院に恩返しをしたい。お世話になった先輩を守りたい。」「同期の〇〇さんを助けるために、大船渡病院に応援に行きたい！」と・・・

こうして二戸病院を含む内陸の県立病院に勤務する職員による被災地の病院への数カ月渡る応援派遣が始まりましたが、寝る場所の確保もままならない応援先の病院で、申し訳なさげな顔でみつめる見ず知らずの職員に笑顔でこう答えた派遣看護師がいると聞きました。「気にしないでいいよ。だって私が同じように困っていたら、きっとあなたも同じことしてくれるでしょ？」と・・・

これが岩手県立病院の「絆」であり、医療人としての使命感から診療を続けた職員はもちろん、自ら派遣を志願した多くの職員がいたことも、苦しい中でも、さも当然のことのように笑顔で答えられる職員がいることも、私たち岩手県立病院の大きな「誇り」です。



そんな中「この未曾有の大災害に立ち向かうためには、病院の枠を超え、すべての県立病院が力をひとつにしてこの難局を乗り越えていかなければならない」と、県立病院職員ひとりひとりが手作りの若草色「芽吹きの色＝復興・再生をイメージした」のリボンを胸に、所属する病院は違えど、心をひとつに重ねて診療にあた

りました。

ふとテレビを見ていたらどこで手に入れたのか、達増知事がこのリボンをつけてニュースに出演していて、「知事も無言で応援してくださっているんだ」と感じたりしたことも思い出します。

これが震災からの復興の願いを込めた、私たちのシンボル「わかくさりぼん」のあらましです。

被災した3病院へは、日本全国はもとより、世界中から多くのご支援をいただき、この温かい思いに後押しされる形で、「支援を受けるだけでなく同じ県立病院職員として自分たちにもできることはないか？」と、県立病院職員有志で立ち上がった『わかくさりぼんプロジェクト』が中心となり、「復興と再生へ～Together As ONE（心をひとつに）～岩手県立病院」を合言葉に、わかくさりぼんを左袖にあしらったポロシャツを製作、主に県立病院職員に販売した枚数はおよそ2万枚、利益金である1千万円以上を被災地域の方々や県立病院への支援に充てています。

ぼんの小さなことかもしれませんが、安くもないポロシャツを購入することで仲間や困っている方を応援する気持ち、心意気を持ち続ける多数の職員がいるということも、「誇り」の裏付けだと感じています。

ということで、思いのギュッと詰まったポロシャツです。クールビズの中とはいえ、軽装すぎて失礼にあたる場面もあるかと存じますが、このような経緯と職員の「心意気」をご承知おきいただき、温かい目で見守っていただけますと幸いです。

早いものであの日から10年が経とうとしています。

現在、世界中が新型コロナウイルスの猛威に脅かされ、「今までの日常」を日常として過ごすことが困難となっている中、その最前線で戦う病院とその職員も不安と緊張の連続を強いられる毎日ですが、こんな時こそ～Together As ONE（心をひとつに）～で、地域の方々にも少しでも安心を届けられればと感じております。

## 放射線治療の最前線へ

放射線技術科

二戸病院が現在の場所に移転新築されてから共に二戸圏域のがん治療を支えてきた放射線治療装置が今年の秋に新しくなります。放射線治療は手術・化学療法と並び、がん治療における三本柱の一つであり、近年その需要はさらに増加しています。放射線治療の特徴として、手術に耐えられない高齢の患者様にも適応となることや、がん周囲の臓器の機能を温存できることが挙げられます。入院せずに治療を受けられるケースも多く、お仕事を継続していただくことも可能です。ここでは、放射線治療の流れと新しい装置の特徴を紹介します。

放射線治療では、始めにCTを撮影し、治療時にはCTを撮影する時と同じ体勢で寝ていただきます。治療台に寝ていただいた状態で、X線写真を撮影し数mmの精度で位置を合わせて治療を行います。1日20分程度の治療を、1か月から1か月半の期間で毎日受けていただきます(土日祝日はお休みです)。

新しい装置の特徴を紹介します。

### 【特徴1】治療台でのCT撮影

これまではレントゲン撮影、すなわち骨構造で位置を合わせておりましたが、新しい治療装置では、治療台でCTを撮影することが可能となり体の内部を見ることが出来るようになります。これにより、従来にも増してがんに集中して放射線を当てるのが可能になり、正常な組織を守ることもつながります。

### 【特徴2】頭や肺への高精度治療(定位照射)

従来よりも高線量率で照射が出来るようになり、一部の治療では短時間で高線量を当てるのが可能になります。そのため、呼吸による動きがある部位、主に早期肺癌の治療が出来ます。また、正常脳への被ばくを抑え、脳転移や脳腫瘍へ高線量を当てるのが可能になります。

### 【特徴3】毎日の治療時間短縮

従来、日々の位置合わせは、X線写真を撮影し治療台を手動で動かしてズレを補正することで行っていましたが、新たな装置では、位置を確認した後に遠隔で治療台を動かすことが可能になるため、位置合わせの時間が短縮されます。また、先に述べた高線量率での照射や回転照射が可能となり、治療時間が5分から10分程度短縮されることが見込まれます。



新しい治療装置のイメージ図

以上、今年の秋に導入される放射線治療装置について紹介いたしました。これまで以上に患者様の安心・安全・優れた治療成績を目指して放射線治療を行ってまいります。がん治療にお悩みの方、身近に悩まれている方がおられましたらぜひ放射線治療をご検討ください。

## 入院支援看護師からのご挨拶

地域医療福祉連携室

<入院>と言われると

これからどうしよう・・・

仕事は・・・金銭面は・・・入院なんてしたことないから

準備はどうしよう・・・どこに連絡したらいいかな・・・など

沢山の不安な事が頭の中をよぎると思います

そんな患者さんの（不安）（心配）（負担）などを、入院が決定した時点から一緒に考えることで、患者さんやご家族が安心して入院生活を送る事ができる環境を整えて行くのが「入院支援看護師」の役割です。

入院が決定した時点で、入院生活のスケジュールやパンフレットを使用し、患者さんにわかりやすい説明に努めて参ります。

外来の看護師及び病棟の看護師はもちろん、必要な場合は、専門の知識を持つ薬剤師・管理栄養士などと連絡を図りながら、患者さんにとってより良い療養生活が送れるように調整いたします。

令和2年5月から2名の看護師で活動を始め、現在、外科・整形外科・循環器内科・消化器内科を対象として支援しています。徐々に診療科を拡大して支援していく予定です。

よろしく申し上げます。



## 正面玄関での体温測定実施のお知らせ

新型コロナウイルス感染症の院内での感染防止に向けて、当院では正面玄関におきまして赤外線サーモグラフィ装置による表面体温の測定を行っております。症状によりましては診察までの間、別室やお車でお待ちいただくことがあるほか、ご予約時間に関わらず、診察までの待ち時間が発生する場合がありますのでご了承くださいるようお願いいたします。

この表面体温の測定につきまして、確実に測定できるように以下のことについてご注意をお願いします。



- ① 赤外線サーモグラフィ装置は、測定カメラが前を通過する患者さまを顔認証したうえで表面体温を測定しております。そこで、患者さまの顔認証ができるよう、測定カメラの前では一旦帽子を取ったり前髪を上げるなどの対応をお願いします。
- ② 赤外線サーモグラフィ装置の前で横一列になって歩くと、位置によっては測定カメラの前の人に隠れ測定できない場合があります。同じく早足で通過すると顔認証されない場合があります。測定カメラの前では一人ずつ、ゆっくり歩行するようお願いいたします。
- ③ モニターを設置して患者さまがご自分の体温を確認できるようにしておりますので、測定もれがないようご自分でもご確認をお願いします。
- ④ まだ残暑が続いております。黒色の衣類・カバンなどをお持ちの方、金属類を装着した方や長時間外にいた方は高体温と測定され、警告音が鳴動する場合があります。その場合は、担当者の指示を受けて再測定などにご協力ください。

また、診察をお待ちいただく間、密集・密接を避けるため待合椅子を一席ずつ空けるなど、お隣の方との距離をとっていただくよう、ご協力をお願いします。

二戸病院広報「ざしきわらし」第30号（令和2年9月7日発行）

編集発行：岩手県立二戸病院 図書広報委員会

〒028-6193

岩手県二戸市堀野字大川原毛 38 番地 2

TEL 0195 (23) 2191 ・

FAX 0195 (23) 2834

URL <http://www.ninohe-hp.net/>

